



第33巻 NO. 1

ななつもり

- ①理事長就任のご挨拶
- ②「釜石地域リハビリテーション
広域支援センターの活動紹介」
- ③シルバーリハビリ体操指導者講
習会について
- ④知っ得と便利「当センターにお
ける褥瘡対策③」



理事長就任のご挨拶

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

理事長 佐藤 義朝

私は平成8年に岩手医科大学を卒業し、脳神経内科講座

へ入局しました。その後、平成16年に当センターへ入職後から現在まで、リハビリテーションに関わる患者さんを中心に臨床医として診療に努め、令和4年からはセンター長の職を拝命し診療を続けております。

当センターは、平成5年10月1日に岩手県により設置され、岩手県のリハビリテーションを支える中核施設として成り立つ公設民営の病院であり、平成28年からは公益財団法人いわてリハビリテーションセンターが運営しています。基本理念として「高度で先進的なリハビリテーション医療の追求」を掲げ、リハビリテーション診療部門と、地域リハビリテーションを支える地域支援事業、学生ならびにリハビリテーション医療・福祉関連施設の職員の教育を担う教育研修事業、そして産学官連携共同研究や福祉機器開発に携わる研究開発事業の4事業を岩手県から委託されております。

私がセンター長を拝命した令和4年の10月、当センターは開設30周年を迎えました。その当時から現在まで、人口減少の影響や度重なる災害発生、および新型コロナウイルス感染症の流行などを経験し、それらは私達の活動にも多くの影響を及ぼした一方、失敗や成功から学ぶ貴重な機会ともなりました。

その中でも事業が遂行できたことは、各方面からの貴重な御支援の賜物であること、くわえて開設から30年をかけて職員間の高い連携が構築されていたことが大きく、諸先輩方のリハビリテ

ションマインドを引き継いだ関係者の皆様に対し、深い感謝の念を禁じ得ません。

現在も、各方面で社会的課題は増加の一方を辿っており、当センターの事業内容も時代に合わせた変化を求められています。理事長就任の職員訓示において、当センターのMission（使命）は「患者さんが地域で安心安全な生活を取り戻すこと」であり、Vision（目指す姿）を「院内だけでなく地域に出て患者さんの生活や、地域のスタッフを支援するリハビリを実現すること」、そしてそれらを遂行する判断基準であるValue（価値観）は「患者さんの尊厳や生活、チームの連携、対話、臨床・研究・業務の一体化、・・・」など、各職員の価値観を大事に40周年に向けてともに歩いていくことを共有しました。

令和10年2月18・19日の両日には私が大会長として「回復期リハビリテーション病棟協会 第51回研究大会inもりおか」をアイーナとマリオスを会場として開催いたします。40周年への歩みを意識するなか、大会メインテーマを「承前啓後（しょうぜんけいご）」とし、先人が創った道を継承し、将来の道を共創するという思いを込め、リハビリテーションに関わる本県と全国の皆様の橋渡しとなる大会にしたいと存じます。

最後に、様々な課題はございますが、当センターの理念に一步でも近づき、本県のリハビリテーションが発展するよう全身全霊で努めて参りますので、皆様からの変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

釜石地域リハビリテーション

広域支援センターの活動紹介

釜石地域リハビリテーション広域支援センター 岩手県立釜石病院 門口 友之

岩手県立釜石病院は、令和7年度釜石地域（釜石市、大槌町）における地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けました。指定当初はほとんど何もわからない状態でしたが、いろいろとご指導をいただくうちに、地域の実情に合わせた活動の重要性を学びました。

今回は、釜石地域リハビリテーション広域支援センター専門部会として設置されている、釜石リハビリテーション療法士会を中心に紹介します。

釜石地域は、平成23年に東日本大震災での支援活動を経験し、地域におけるリハビリテーション専門職の活動の重要性を認識していましたが、医療連携・地域包括ケアに関する会議等への参加要請は無く、リハビリテーション専門職が出席することはありませんでした。行政や他職種団体と連携し、活動に参加していくためには、リハビリテーション専門職が一体となった組織を設立する必要性があると考え、釜石地域リハビリテーション広域支援センターに専門部会として、平成25年に地域に勤務するリハビリテーション専門職57名全員を会員とする釜石リハビリテーシ

ョン療法士会を設置しました。

釜石リハビリテーション療法士会を設置したことにより、リハビリテーション専門職への窓口が一本化され、行政や他職種団体との連携が図られ、医療連携や地域包括ケアに関する会議や介護予防事業等への参加要請をいただけるようになりました。

現在、釜石リハビリテーション療法士会には、釜石地域の病院及び施設等14施設に勤務する理学療法士38名、作業療法士22名、言語聴覚士4名、合計64名全員が会員として活動に参加しています。

今年で釜石リハビリテーション療法士会は設立14年目になりますが、地域においては人口減少、高齢化、単身世帯の増加、労働人口減少等様々な問題が加速しています。今後もリハビリテーション専門職が、行政や他職種団体と連携して地域の問題に対処できる体制を継続していきたいと思っています。



釜石地域リハビリテーション広域支援センター

住 所：〒026-8550 岩手県釜石市甲子町10-483-6 岩手県立釜石病院内

担当者：リハビリテーション技師長 門口 友之

連絡先：TEL：0193-25-2011 FAX：0193-23-9479

当センターにおける褥瘡対策について③

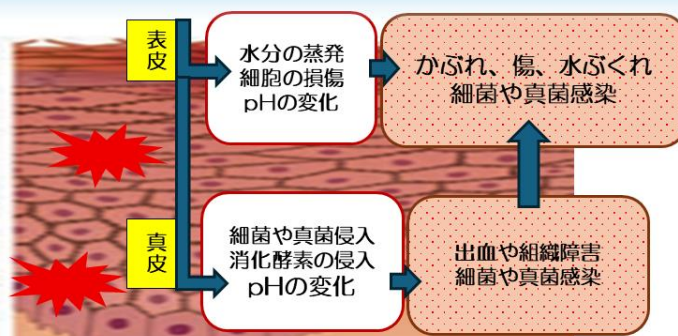
褥瘡対策・NST 委員会 看護師 小野沢 美佳

当センターにおける褥瘡対策についてのシリーズ、第3回目、4回目は「おむつに関わる皮膚トラブル対策」を2回に分けてお話しします。

おむつに関わる皮膚のトラブルが発生すると、褥瘡はできやすく治りにくいです。排泄物が皮膚に触れることで、皮膚は、表面だけでなく奥の真皮まで傷ついてしまいます(図1)。では、予防するにはどうしたらよいでしょうか。

図1 失禁と皮膚の変化

排泄物が皮膚に触れると、表皮の細胞が湿り、膨らむ(浸軟)



1. トイレや尿器への排泄を促し、おむつへの排泄を減らす

2. 皮膚が弱りにくい体をつくる：
十分な栄養と水分をとりましょう。持病がある場合は、病気や薬剤が皮膚に影響するかを知っておきましょう。

3. 皮膚に付着する排泄物の管理：
便の硬さによりケアを変えます(図

2)。①～③は硬すぎ、⑤～⑦は軟らかすぎます。皮膚に悪さをするのは特に⑦の便です。

①～④(有形便)の管理

清拭：おしりふきや皮膚清拭剤を用いて、強く擦らず便を除去します。便を除去しきれなければ、微温湯で流します。

洗浄：皮膚洗浄剤を用いて、泡で優しく洗い、微温湯で皮膚に付着した排泄物や垢を除去し洗い流します。

※弱酸性のソープを選択しましょう。アルカリ性の石鹸は過剰に皮脂を除去してしまいます。皮膚への刺激が大きくなるため、排便回数が多い場合もソープの使用は1日1回とします。

保湿：洗浄により皮脂が蒸発するため保湿します。ワセリンやミネラルオイルが主である保湿剤を、オムツが接する部位にまんべんなく塗布します。セラミド含有の保湿剤も有効です。角質に水分を保持する成分(グリセリン、尿素、ヒアルロン酸等)が配合された保湿剤は、かえって浸軟してしまうためおすすめできません。

次回は引き続き、⑤～⑦(軟便、水様便)の管理についてお話しします。

参考：IAD ベストプラクティス(日本創傷・オストミー・失禁管理学会編集)

図2 プリストル便性状スケール：1/2/3/4/5/6/7



図3 オイルやジメチコンを含有する皮膚清拭剤の例
商品名(販売元)を示す

<年4回発行>

発行●いわてリハビリテーションセンター 所在地●〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

TEL019-692-5800 FAX019-692-5807

Eメール●info@irc.or.jp インターネットホームページ●<http://www.irc.or.jp>